

## 『JVA2023 年年間統計調査結果』について

当協会の業務部会マーケット調査委員会は、2024年1月～12月のビデオソフトの出荷についての統計調査を『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol. 99』にまとめました。

つきましては、ここに結果の抜粋となりますが2023年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、本報告書は一般の方にも有料にて頒布しております。

本件のお問い合わせにつきましては、または、協会ホームページの「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

## 2024年（1月～12月）の実績について

はじめに

前年の2023年は19年ぶりに売り上げ実績が前年を上回る形となったが、2024年はその反動もあり、年初からある程度厳しい結果となることが予想されていた。世間はアフターコロナへと移行し、それに伴い消費者の行動やマインドは変化していった。その中で映像コンテンツ業界では、ビデオソフトの購入・レンタルから配信へのシフトがより進んでいった一年となった。その一方で、2023年から見られていた円安による部材・原材料高騰による一部ビデオソフトの値上げの流れが2024年も続いているという状況もおさえておきたい。

1. 2024年のビデオソフトの総売上は973億6,900万円で前年比84.5%と1,000億円を割り前年を大きく下回る実績となった。下半期だけでみると531億7,600万円で前年同期比91.4%であったが、上半期が440億5,200万円で同77.2%と前年同期を大きく下回ったことで、年間でも大幅に前年を下回る結果となった。

ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVDビデオが302億2,500万円で前年比73.1%、ブルーレイ（Ultra HD ブルーレイを含む。以下同様）は671億4,400万円で前年比90.8%と、ともに前年を下回る結果となった。構成比ではDVDビデオの構成比が31.0%（2023年は35.9%）、ブルーレイの構成比が69.0%（2023年は64.1%）となり、ブルーレイの構成比が順調に拡大してきている。

<添付資料 表1>

2. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別の構成で見ると、販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の割合は、92.1対0.5対6.6対0.7となり、販売用の割合が増加し（2023年は91.7%）、レンタル店用の割合が減少する結果となった。

<添付資料 表4>

3. 販売用全体（DVD ビデオとブルーレイの合計）の売上金額は 896 億 9,800 万円で、前年比 84.9%と前年を下回った。ブルーレイは 659 億 6,900 万円で前年比 90.7%、DVD ビデオは 237 億 2,900 万円で前年比 71.9%と共に前年を下回る結果となった。販売用全体に占めるブルーレイの売上金額の構成比は 73.5%となり、構成比拡大が続いている。

<添付資料 表 5 >

4. 販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比1位（42.7%）の『音楽（邦楽）』は最大構成比を維持したものの、前年比71.6%と前年を大きく下回った。また構成比3位（7.4%）の『日本のTVドラマ』が同78.5%、構成比5位の『洋画（TVドラマを除く）』が同73.9%といずれも前年を大きく下回った。

その一方、構成比2位（26.9%）の『日本のアニメーション（一般向け）』は『映画 THE FIRST SLAM DUNK』などのリリースがあったこともあり前年比107.2%、構成比4位（6.2%）の『邦画（TVドラマを除く）』も『ゴジラ-1.0』といった作品のリリースが売上げをけん引し同127.7%とそれぞれ前年を上回る結果となった。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『洋画（TVドラマを除く）』が 81.5%（前年 84.7%）、『日本のアニメーション（一般向け）』が 84.3%（同 84.5%）、『音楽（邦楽）』が 74.3%（同 66.1%）、『邦画（TVドラマを除く）』が 65.9%（同 59.5%）、『日本のTVドラマ』が 57.2%（同 59.1%）となっている。

<添付資料 表 7 >

5. ブルーレイの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位（43.2%）の『音楽（邦楽）』は前年比 80.5%、構成比 3 位（5.8%）の『日本のTVドラマ』が同 76.0%、構成比 4 位（5.6%）の『洋画（TVドラマを除く）』も同 67.7%と、いずれも前年を大きく下回った。一方、構成比 2 位（30.8%）の『日本のアニメーション（一般向け）』は前年比 107.0%、構成比 5 位（5.6%）の『邦画（TVドラマを除く）』も同 141.4%とそれぞれ前年を上回る結果となった。

<添付資料 表 7 >

6. DVD ビデオの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位（41.5%）の『音楽（邦楽）』が前年比 54.3%と前年を大きく下回った。また構成比 3 位（10.6%）の『日本のTVドラマ』は同 82.0%、構成比 5 位（5.0%）の『芸能・趣味・教養』も同 85.2%とそれぞれ前年を大きく下回る結果となった。その一方、構成比 2 位（16.0%）の『日本のアニメーション（一般向け）』は前年比 108.7%、構成比 4 位（8.0%）の『邦画（TVドラマを除く）』が同 107.6%と、共に前年を上回る結果となった。

<添付資料 表 7 >

7. レンタル店用全体（DVD ビデオとブルーレイの合計）の売上金額は 64 億 7,100 万円で、前年比 78.8%と前年を大きく下回った。売上金額全体に占めるブルーレイの割合が 7.3%となり、前年の 4.9%から拡大した。全体の 92.7%を占める DVD ビデオの売上金額は 59 億 9,900 万円で前年比は 76.8%となった。またブルーレイのレンタル店用の売上金額は 4 億 7,200 万円で前年比 116.7%と前年を上回る結果となった。

<添付資料 表 5 >

8. レンタル店用全体の売上をジャンル別にみると、構成比1位(29.4%)の『日本のアニメーション(一般向け)』が前年比97.2%と前年をわずかに下回った。また構成比2位(19.5%)の『アジアのTVドラマ』が同60.1%、構成比3位(17.8%)の『邦画(TVドラマを除く)』が同97.0%、構成比4位(11.8%)の『洋画(TVドラマを除く)』が同86.1%、構成比5位(7.4%)の『日本のTVドラマ』が同53.3%と、上位5ジャンルはいずれも前年を下回る結果となった。

<添付資料 表8>

9. 売上金額を売上数量で割って単純に求めた1枚当たりの単価を見てみると、DVDビデオの販売用の平均単価が3,769円で前年比93.3%、ブルーレイの販売用が6,631円で同109.7%とブルーレイのみ前年から上昇した。

DVDビデオの『レンタル店用』の平均単価は1,474円で前年比101.0%、ブルーレイの『レンタル店用』の平均単価も2,309円で同152.3%と、ともに前年を上回る結果となった。

<添付資料 表6>

以 上

#### 追記

<本統計調査報告についての注意点>

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け(アニメーション)」などにある“子供向け”とは、目安として9歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- ブルーレイの売上にはUltra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。